

背景

◆人口減少／高齢化

合併当初2006年(H18)4月に38,426人から、2021年(R3)4月28,980人となり、15年間で9,446人減少した。
さらに、高齢化率は増加し、2021年(R3)9月42.2%である。今後75歳以上の後期高齢者の割合はさらに増加と見込まれる。

◆医療・介護におけるニーズの増加

高齢者生活圏域ニーズ調査(R2)では、将来の心配ごと困りごとについて「病気や介護のこと」を一番に挙げる高齢者は全体の58.4%であった。

現状の
課題

◆地域医療の担い手である開業医の高齢化、後継者不足

平成30年に3カ所の医療機関が閉院。
医療介護サービスを必要とする高齢者が増える一方、医療従事者、介護従事者が減少してきている。

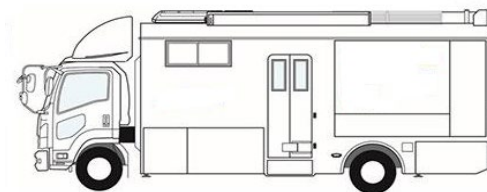
◆高齢になっても暮らし続けられるしくみの構築

事業の
目的

診療所機能をもった大型車両により診察や検査等を提供することで、第1次医療体制の安定化を図り、
市民の健康維持を推進するとともに、**地域住民のコミュニティの場を提供**する。

これまでの
取組

- ◆ H30 宇陀地域の医療を考えるワーキングチームの設置
- ◆ H31.2市民、医療機関アンケート実施
- ◆ H31.4宇陀市立病院地域医療部新設
- ◆ R1 移動診療車による医療提供体制の構築開始
- ◆ R2 地区医師会概要説明



事業
内容

移動診療車の概要

車両の規模：全長10メートル 大型車 診察室、X線撮影室完備
 搭載物：心電図、エコー装置、生体モニター、AED、検体検査機器等

コンセプト 移動可能な診療所

- ◆対象地域で定期的な診療を行えること。
- ◆仮設ではあるが、診療所として必要な機能を備えていること。

ポリシー 信用・信頼される診療

- ◆必要な診療・検査はできる限り移動診療所内で完結。
 あそこに行ったら市立病院や他の病院に搬送されるかもしれないけど、
 なんとかしてもらえ。と思ってもらえることを重視



得られる
成果等

得られる成果

- ◆移動診療車を1台購入することで、医療過疎地域の公共施設駐車場等に診療所を仮設し、診療することができる。
- ◆新たに医療需要があっても、希望場所に診療所を仮設できる機動力がある。
- ◆災害時にも活用できる。コロナワクチンなど予防接種も可能。



＜企業が得られるメリット＞

- 社会的イメージの向上
- 寄附を通じたまちづくりへの参画

